

まちづくり出前市長室（大津地区）開催記録

1. 日 時：2014年7月3日（木）19時～20時30分
2. 場 所：JA 大津
3. 参加者：市民41人、市関係者（市長、副市長、政策監、企画総務部長、企画総務部理事(危機管理局长兼務)、市民環境部長、市民協働推進課長ほか)

-
1. 大津地区自治振興会 会長あいさつ
 2. 市長あいさつ
 3. 平成26年度の市政運営について
市長によるパワーポイントでの説明

4. 市政運営についての意見交換

市民 先程の話の中で、鳴門にはお金がないという話と、今、振興策や活性化策を考えているということを説明していただいたが、イメージとして、鳴門には、アジア初演の地という「第九」がある。また、私も以前関わった鳴門海峡を世界遺産にしようという運動や、最近では四国八十八カ所、遍路道を世界遺産に登録しようという運動が出てきているが、こういうことが「第九」と含めてできれば観光客も増え、鳴門のイメージアップになる。そうすると、鳴門に住もうという人も、増えてくるのではないか。鳴門海峡や遍路道の世界遺産登録の進捗状況は、現在どれくらいなのか。また、可能性としてあるのかを聞かせていただきたい。

市長 先程はお金が無いという説明をした訳ではない。皆様にいただくお金は、(県内の他の)8市と比べても状況的には良い。ただ、自由に使うことができるお金が非常に少ないという意味である。言い方を変えるとお金が無いと言われるかもしれないが、そうではないということをお知らせしたい。他と比べてお金も税収も無い、何も無いという話ではない。その点を踏まえて話をさせていただく。

二つの世界遺産の話があるが、八十八カ所の遍路道を文化遺産にしようという話は、四国四県の知事が取り組んでいる。鳴門がスタートで一番、二番札所があるため、鳴門市としても当然、応援はさせていただき、部会に入り色々なことは行っている。しかし、どちらかというと県主導だ。一方、鳴門海峡については、平成10年くらいに民間の方々が集まり、鳴門海峡を世界遺産にしようという活動をしていた。ただ、二、三年くらい経過した時に自然遺産は厳しいと一旦活動を休止した。そのような状況の中、平成21年に、世界遺産を目指すことにより皆が街を綺麗にし、少しでも観光について考えていくのではないかと、観光振興になるだろうと思い、鳴門海峡を世界遺産化しようと再度スタートさせていただいた。その中で、今度は同じように海峡をまたぎ観光資源に

している南あわじ市に、鳴門の方から声を掛け、一緒にやろうということになったが、淡路全体で取り組むとのことで、今は淡路の三つの市が一生懸命頑張っている。民間の方が非常に力を入れており、兵庫県の知事が応援するという話になり、世界遺産化のための調査費を一部兵庫県が出している。鳴門海峡をはさんで、鳴門と淡路が協力しながら徐々にではあるが世界遺産化に向け再スタートを切っている。また、鳴門でも6月25日に「鳴門海峡の渦潮を世界遺産にする会」という新しい団体ができた。この団体は、鳴門市うずしお観光協会、鳴門商工会議所、大麻町商工会、鳴門市観光コンベンション株式会社が発起人となり設立されたもので、今後会員を募集して広く大きくしていきたいと言っていたので、これから皆様方にも世界遺産化に取り組んでいる姿が見えてくると思う。その時は是非ともご協力をいただきたい。自然遺産に選ばれることは非常に難しいと思うが、可能性はゼロではないので、徐々に行っていきたい。ただ、鳴門海峡は再生可能エネルギーの研究で、潮流発電もできるのではないかという話も出ている。原発一基分くらい、400万kwのものでできるという話もある。仮にエネルギーのことをしようとなれば、景観が全部崩れてしまうので、そのあたりは考えていかなければならない。

市民 松茂町との交流で、松茂町長が、『町としては第一に災害を防止する、人の命や財産を守る事が町としての大きな使命だから絶対にする』と話していた。先程の市長の説明の中では、防災に対する意識というか、自助、共助、公助のうちの公助について、配慮が足りないと思う。もう少し考えてもらいたい。現在の実情として、各地の自主防災会に任せっ放しなのかどうかかわからないが、市として統一されたものが無い。もう少し公助を考えていただき、統一した理解で防災を進めてほしい。

市長 災害はいつ起こるかかわからないため、真摯に取り組まなければいけない。津波避難対策推進計画は、おそらく8市の中で一番に作り、100%自主防災会が組織された。ただ、組織率が100%になっても実際に活動していなければ意味がないので、そこはご指摘のとおり、こちらも考えさせていただこうと思う。それから、自助、共助、公助に加え、鳴門の場合はもう一つ、向こう三軒両隣の人、近くが助けるという「近助」を付け加え、四つで守っていくとしている。もしどこかで話をするときは、鳴門は自助、共助、公助、に加え近助があると言ってほしい。公助については、また考えさせていただく。

市民 私は野球をしているのだが、阿南市は「野球のまち阿南」というキャッチフレーズがあり、色々なチームが阿南の大会に出ている。鳴門のキャッチフレーズは何なのか、「何々のまち鳴門」というものが一つも無い。若い人や高齢者など、皆でそれに向けてワイワイできるような楽しいまち、というものを作ってほしい。阿南は野球のまちとして、少年の部や壮年の部、60歳の還暦野球など、色々な人が集まっている。鳴門は何かないか。

市長 昭和50年から60年のあたりには「教育と文化のまち」という話で教育大学を誘致していた。しかし今、鳴門は教育と文化のまちなのかというと、あまりイメージが無い。

基本的には教育と文化だと思うが、これからスポーツは非常に大事になってくると思う。「観光のまち鳴門」も当然ある。色々なものがあるが、突出しているものが無いというのがつらいところだ。今は徳島ヴォルティスがあり、「サッカーのまち」とは言いづらいかもしれないが、鳴門がホームタウンだと言える。PRについてはシティセールスで、鳴門のことをどんどん注ぎ込んでいこうと思っている。今の若い子どもたちは、鳴門というと鳴門海峡、地名の鳴門ではなく、テレビアニメのNARUTOというイメージになっている。そこは冗談無く考えなければいけない。

去年から、高速バスのエディに鳴門市のラッピングを始めた。ただ、鳴門市が始めると、すぐに徳島県、徳島市が始めている。鳴門市を県外に向けPRしていきたいと思うので、ご理解いただきたい。キャッチフレーズについては考えていきたい。

市民 第一小学校のPTA役員をしている。子どもたちの通学路の安全面の整備をもう一度点検していただきたい。国道28号と県道12号について、以前から訴えているが交通量が多いところがあり、細い道も多々ある。旧の撫養街道も一応通学路になっている。そのあたりの安全面の対策を一つ考えていただきたい。

また、新しい給食センターができることに伴い、各学校の給食室が廃止になる。各学校とも、給食を上げるためのリフトが老朽化しているので、これを機に更新や新しくエレベーター化し、そのまま下から上げることができる状態になるようご検討いただきたい。これは学校PTAとして願います。

市長 おっしゃるとおりセンター化し、各校で行っていた給食自校方式は今回止めて、より安全によりおいしくという視点で行わせていただく。各学校で事情も環境も違うので、そこは当然調べて、必要な対策はきちんと行わせていただく。

小学校通学路の道路が狭くなっているところだが、毎回色々と皆さんに対応していただいている。立ち止まるという足跡のマークもあったりする。交通安全の件についてはまた検討する。

市民 前回の出前市長室でお願いしてあった高速道路の避難場所の件については、段関、大幸で一箇所ずつできた。ただ、逃げるところはできたが、どのようにして逃げればよいかかわからない。防災無線の整備をお願いしたい。

市長 デジタル防災無線については、来年の3月11日に、それを使った避難訓練をしたいと思っており、それまでには完成する予定である。今度はモーターサイレンというものを付けており、家の中でも、海でも、作業をしても非常に大きな音で「ウー」という音が鳴る。それを合図に逃げることになるので、その機能も整備していく予定である。

会長 防災無線の件に関しては、段関と矢倉に整備されるように危機管理課から私の方に案内がきている。他に（議題も）ないので、これで本日の出前市長室を閉じたいと思う。ではもう一度、泉市長にご挨拶をお願いしたい。

市長 先程も話したが決してお金が無いということではなく、お金の使い方の問題である。これから、もう一段苦勞する行政改革に突入することになり、その点皆様に後押しをし

てもらわなければならない。本日見ていただいたように、平成10年までに広げた行政施策を、今整理している段階だ。できるだけ早いうちに普通の自治体に戻ることができるようにしたい。そうすると皆様にもお返しできることが多くなっていくと思うので、よろしくお願ひしたい。

もう一点、7月1日から臨時給付金の受付が始まっている。旧の市立図書館、今の身体障害者会館で行っているの、是非ともお声掛けの程お願ひしたい。

最後に、先程「野球のまち阿南」という話が出たが、鳴門は「第九」アジア初演の地であり、もう一つ、徳島ヴォルティスのホームタウンでもある。J1に昇格し、14試合終わった今、最下位であるが、残留も不可能ではないと思っているので、是非ともスタジアムに行き応援をしていただきたい。一生懸命、最後まで応援をしたいので、皆様のご支援をよろしくお願ひしたい。

会長 それでは、これでまちづくり出前市長室を終了する。

(以 上)